

# いわて平泉米だより

令和6年4月号



## 今年の稲作は コレに注意しましょう!

### ①高温対策

今年度も高温被害の発生が予想されますので、ケイ酸質資材の施用を検討しましょう。ケイ酸質資材を施用することで稲の温度が下がり、シラタ米の発生などを低減することができます。

### ②機械のチェック

これからのシーズンに向けて、機械のメンテナンスをしっかりと行いましょう。特に田植え機については、ツメが減っていると浮き苗が発生しやすくなります。ツメをチェックして擦り減っていたら交換を検討しましょう。

### ③紋枯病

近年、紋枯病の発生が増加しています。紋枯病の原因となる菌は収穫後の稲わらに付着していますので、代かきの際に浮いたわらを除去することで、発生を抑制することができます。

また、浅水での代かきをすることで浮きわらの発生を減少させることができます。

### ④いもち病

葉いもち病対策として箱粒剤を使用していますが、使用する際には1箱当たり50<sup>㍓</sup>の施用を徹底することで、いもち病の発生を抑えることができます。1<sup>㍓</sup>当たり20箱に散布できるよう準備し、まきむらが発生しないように均一に散布しましょう。

### ⑤ヒエ

昨年は、気温も相まって後ヒエの発生が目立ちました。昨年発生した圃場は今年も発生が懸念されるため、ソルネットやエリジャンの施用で対処しましょう。ソルネットやエリジャンはヒエ種子から芽を出させない効果があります。なお、散布した場合は慣行栽培になるので注意してください。